

広島文教大学附属高等学校だより【保護者の皆様へ】 3

2025 年 6 月 15 日

校長 岡 利道

部活動 点描 ～バスケットボール部～

今回は、文化系の中から、茶道部さんを取り上げました。今回は、体育系の中から、バスケットボール部さんを取り上げます。現時点では、顧問2名（外部コーチ1名・本校教員1名）、部員14名（3年8名・2年4名・1年2名）です。前年度まで顧問を務められた本校教員1名も、試合ごとに応援に駆けつけてくださっています。

部員の皆さんは、本校の体育館だけでなく、大学の体育館を利用するなどして、豊富な練習量を誇ります。保護者からの多大な応援もあり、現3年生が主体となった戦いにおいて上位進出を繰り返してきました。広島県において、「ここに文教あり」との評価を得ているところです。

ここでは、その一端として、先ごろ行われた「第78回 広島県高等学校総合体育大会バスケットボールの部」での健闘ぶりをお伝えします。地区予選を順調に勝ち抜き、決勝トーナメントに進みました。ベスト16入りをめざしたI高校戦に目を向けます。

序盤の立ち上がりはよく、優位に試合を運んでいきます。意外とロースコアであったことは、やや気になりました。そのうちにIチームがじりじりと追いつけてきて、終盤にかけては追いつけられ、一進一退の展開へ。



51 対 51 の同点で、そのまま延長戦にもつれ込もうかというとき、文教チームがファウル。I チームのポイントゲッターがフリースローです。万事休すかと思いきや、二つとも外れました。ピンチのあとにはチャンスが。I チームのファウルを呼び込んだのです。さあ、こちらのフリースローです。時計板を見ると、なんと終了 0.3 秒前でした。

文教チームは、落ち着いてフリースローを 2 本とも決め、53 対 51 で逃げ切りました。後で聞いたところによると、ファウルが起きる前のタイムアウトの時、監督から、その展開を見越した指示が出ていたとのこと。さすがの采配ですし、選手も期待にがっかりと応えました。

しばらくしてから、勝利を決めた 3 年の宮田キャプテンに、その時の心境を聞いてみました。フリースローをする前は、さすがに困った場面だなあ、緊張するなあと思ったそうです。しかし、もしダメだったにせよ、同点のままで延長戦になり、そこで頑張ればいいんだと自分に言い聞かせたら、気持ちが楽になったとのこと。そうして一本目を打ったら、決まりました。さらに気持ちが楽になり、二本目も決まったのだそうです。聞いていた私は、宮田さん自身がこれまで猛練習して、試合経験も積んでいたからこそできたのだと感じました。文教チームの底力だなあと思いました。

次の試合では、強豪校の S チームと当たりました。最終的には準優勝したチームです。115 対 91 で負けたとはいえ、素晴らしいプレー、スコアであったと思います。現チームでのフィナーレは、ウインターカップ大会です。皆で健闘を祈りましょう！

レッツ・エンジョイ！ & レッツ・トライ！ について

もう一つのトピックに移ります。校長として挨拶させてもらうことが、多々あります。「レッツ・エンジョイ！ & レッツ・トライ！」という言葉は、幾度となく使ってきました。それには、わけがあります。ある役者さんの言葉の影響があるのです。

それは、俳優・村野武範（むらのたけのり）さんが、学園青春ドラマ「飛び出せ！青春」（日本テレビが 1972 年～1973 年に放映）で使った言葉です。何という言葉かという、「レッツ・ビギン！」です。その影響で、「レッツ・エンジョイ！ & レッツ・トライ！」という言葉を作りました。

この「レッツ・エンジョイ！ & レッツ・トライ！」は、文字通り、みんなで楽しもう・挑戦しよう、という意味です。広島文教大学附属高等学校で、二度と来ない尊い三年

間をみんなですごし、学校生活や勉強に打ち込もうね、と岡が呼びかけるものです。彼女たちの行く手には、ひょっとしたら苦しいこと悲しいことがあるかもしれません。順風満帆ではないかもしれません。けれども、エンジョイ、トライで行こう。これからも連発することになるかと思います。どうかよろしく願いいたします。

付 録 ～お暇がありましたら、お読みください～

それなら、「レッツ・ビギン！」で行けばよかったじゃないか、と言われるかもしれませんが。その価値は認めつつ、やはり、私は「レッツ・エンジョイ！ & レッツ・トライ！」を使います。

ここで、「レッツ・ビギン！」のすばらしさを、私なりに整理しておきます。すでに触れた「飛び出せ！青春」で、村野さんは河野武（こうのたけし）という新任の英語教師として登場します。太陽学園高校という高校に着任し、その挨拶の開口一番「レッツ・ビギン！」と言います。それを黒板に書きます。生徒に「とにかく、一緒に何かを始めよう」と呼びかけます。

当時の私は、中学校3年生から高校1年生にかけて、そのドラマを見ました。奇しくも、生徒の皆さんと同年代です。本当に面白い作品で、腹を抱えて笑ったり、悲しい場面では涙を流したりして見ていました。その時の頑張る教師の姿が心にインプットされています。いやあ、「ザ・昭和」で失礼します。

着任の挨拶に戻ります。主人公の河野武は「レッツ・ビギン！」と呼びかけたあとで、「これは、アメリカのケネディ大統領の言葉です」とだけ付け加えます。ケネディは、ジョン・F・ケネディ（1917-1963 アメリカ合衆国第35代大統領）です。主人公は触れなかったのですが、ケネディは1961年1月20日の大統領就任演説において、「（前略）私がおこなっていきたい政策のすべてが最初の100日間で完成することはないだろう。最初の1000日間でも、私の政権が存続する期間でも、いやもしかしたら私たちがこの地上で一生をかけても終わらないかもしれない。だが、それでも始めようではないか。」という文脈の中で「レッツ・ビギン！」（正確には「But let us begin!」）を使ったとのことでした。

困難に立ち向かう勇気の値打ち。いつの時代も変わらないようです。